

第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/25】

女子準決勝

神奈川選抜

3

1	—	1
2	—	1
0	—	5
0	—	3

10 京都府選抜

PSO

審判： 御崎 智徳
荻野 浩明

神奈川選抜	13	SH数	16	京都府選抜
	3	速攻数	8	
	13	ST・SB	15	
	5	SH・P誘発アシスト	8	
	17%	GK阻止率	63%	
3	EX反則数	3		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

夏のJO(中学・高校)を制した京都の実力を神奈川がどう封ずるかが試合のカギとなる準決勝戦。

1P

両チームともにディフェンスへの対応力が高く、ゴール前へのラストパスを遮断する展開が続く中、神奈川が退水攻撃の機会を確実に決めて先制(3:00安藤)。しかし、京都もゴール前でのターンオーバーからの連続プレーで、すかさず同点に追いつく展開で(0:52林)、拮抗した試合となった。特に神奈川GK甘庶の積極的なプレーによってゴール前ボールをスチールし、神奈川が守備的な対応力で試合を支配していたのがこの第1ピリオド。その結果、京都側は攻撃時の接点プレーでのミスが続出し、リズムに乗れない展開となった。

2P

このピリオドも神奈川GK甘庶の積極的なプレーで京都ボールを奪取し、そこを起点としてピリオド中盤に2得点(2:47橋本、2:04橋本)。対する京都はピリオド終了間近に城之下の中央突破ドライブ攻撃から退水を誘発して、そこを大前が決めて1点差として前半を折り返した(神奈川3-2京都)。

3P

京都が後半に入って、高い位置でのプレスディフェンスで相手ボールを奪取し、そこを起点に城之下の中央突破ドライブ攻撃パターンで連続得点して逆転。神奈川はたまたまTOで流れを変えようとするが、プレスディフェンスでボールを回すことができずにシュートにすらいけない状況。完全に京都ペースとなった。このピリオドの神奈川のシュート数は3本のみで、遠くからの威力のないシュートしか放つことができず、そこも京都の攻撃起点となってしまった。このピリオドだけで京都は5得点。

4P

ペースは京都のまま、プレスディフェンスからのボール奪取、それに反応した城之下の中央突破ドライブ攻撃で連続得点。神奈川は攻撃らしいプレーが出せないまま、後半は無得点で終了し、京都10-3神奈川で京都が決勝進出となった。

【プレー分析から】

シュート数だけでは両チームに大きな開きはないが、効果的なシュート本数としては京都が圧倒。また、ボール接点での奪取プレー数も神奈川は序盤は優勢に立っていたものの、後半は京都側に圧倒され、神奈川の接点プレーの起点となるGK甘庶のボールスチールも前半の3本にとどまった。それだけ、前半と後半とではチームの戦術的な対応が異なった展開となった。

実力的には優位な京都であったが、序盤に見せた神奈川の粘り強いディフェンスは印象に残った。その分、体力を消耗して後半に影響が出た試合展開となったが、中盤からのボール接点への対応などは今後のさらなる成長に期待が持てるものがあった。